

*EPO 東北からのお知らせ

「3.11あの時 東日本大震災2011年3月11日(金) 14時46分からの物語」が冊子になりました!

2011年4月からホームページに掲載してきた、環境活動に携わる皆様が語る「3.11あの時」レポートが、ヒアリング開始から1年を機に冊子となりました。40の団体・個人にご協力いただき、NPO、企業、福祉施設、協働組合、個人、さまざまな視点から東日本大震災を見つめます。冊子は無料配布しております。ご希望の方はEPO東北までご連絡ください。



*EPO 東北オフィス利用案内

◆ミーティングルーム貸し出し〈無料〉

環境活動、震災復興支援活動のミーティングやセミナーにご利用いただけます。
開館日/月～金 開館時間/10:00～18:00 利用人数/30名まで
※時間外、土日の利用も可能です。事務局までご相談ください。

◆イベントチラシの設置

環境イベントや助成金等の募集チラシ、環境にまつわるパンフレットを設置しています。
お気軽にお立ち寄りください。
チラシ設置希望の方は持参または郵送でお寄せください。



*Web-Siteのご案内

◆お役立ち情報：環境助成金情報、エコの日一覧

◆随時更新：東北6県の環境イベント情報 EPO東北NEWS 3.11あの時 stage2012

スタッフによるつれづれ日記、被災地や出張先の現地レポートが人気です!
大震災から1年が経過し、2012年度は「3.11あの時」ヒアリング後を同った追加レポートも掲載しています。

*EPO 東北のパートナーシップ団体

EPO東北は各県で環境活動を進める団体の協力を得て運営しています。

青森県環境パートナーシップセンター	http://www.eco-aomori.jp/
環境パートナーシップいわて	http://www.iwate-eco.jp/
環境あきた県民フォーラム	http://www.eco-akita.org/index.html
環境ネットやまがた	http://eny.jp/
超学際的研究機構	http://www.chogakusai.ecnet.jp/
せんだい・みやぎNPOセンター	http://www.minmin.org/
環境会議所東北	http://kk-tohoku.or.jp/
仙台広域圏ESD・RCE	http://rce.miyakyo-u.ac.jp/
環境パートナーシップ会議	http://www.epc.or.jp/

EPO東北は東北地方環境事務所(環境省)と財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)が協働して運営しています。



EPO TOHOKU

東北環境パートナーシップオフィス
Environmental Partnership Office TOHOKU

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町2丁目5-1 オークビル5F
TEL: 022-290-7179 FAX: 022-290-7181
E-mail: info@epo-tohoku.jp URL: http://www.epo-tohoku.jp

勤務時間：月曜日～金曜日【9:30～18:00】
休日：土曜・日曜・祝日・お盆・年末年始



メールマガジン登録者募集中!!

発行：毎月上旬
登録：無料

内容：当月締切の環境助成金情報、環境イベント情報、EPO東北の活動情報や環境にまつわるお知らせ

環境イベント告知を掲載します

環境イベントを企画している皆さま、ぜひEPO東北事務局まで情報をお寄せください。ご提供いただいた催事情報はEPO東北のホームページ、メールマガジン等でご紹介させていただきます。

また、チラシを持参・ご郵送いただいた場合はEPO東北オフィスに設置いたします。



TOHOKU EPO通信

[エポ] vol. 16

東北環境パートナーシップオフィス



東日本大震災で被災した子どもたちを支援するための復興共生住宅「手のひらに太陽の家」

Contents

*EPO 東北の取り組みについて

「平成24年度環境NPO等ビジネスモデル策定事業」
「環境教育に関する法律が変わりました!」

*EPO 東北活動トピックス

*復興支援グッズ

*東北6県EPOトピックス

東北環境パートナーシップオフィスとは

東北環境パートナーシップオフィス(略称:EPO東北)は、東北地域の環境活動を促進するために、人と人をつなぐ拠点となることを目的としています。さまざまな分野の人や組織が垣根を越えて協働できるよう、地域の環境情報の発信と交流機会の提供を行い、活動の広がりや新たな取り組み創出のきっかけ作りを担います。たくさんの人がEPO東北をきっかけに出会い、新たな環境活動の環が広がるよう、皆さんのパートナーシップ作りを支援します。

EPO東北の取り組みについて

平成24年度環境 NPO等ビジネスモデル策定事業

今年度、EPO東北は環境省が実施する「環境NPO等ビジネスモデル策定事業」の地域支援事務局を担当しています。この事業の目的は、環境NPOなどが地域の自然エネルギーやまだ利用されていない資源の活用・保全を通じて地域社会を活性化し、地域の社会変革をもたらす活動を自立して行えるよう、地域と連携して全国に普及しうるビジネスモデルを創出することです。今年度は①活動エリアが東北地域、②東北地域の資源を活用、③東北地域の民間団体や行政等と協働実施のいずれかの条件を満たすことが応募要件でした。17件の応募の中から3団体が採択され（表参照）、EPO東北は所在が東北にある2団体の事業を支援しています。



採択団体は専門家のアドバイスを受けながら事業計画づくりを進め、策定された事業計画書は年度末に地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）のWeb-siteで公開されます。

環境NPOなどが自立、継続して運営するためには、補助金などの公的資金のみに依存しない資金調達や経営のノウハウが必要です。採択団体は「マーケティング手法、広報のノウハウがほしい」などNPOならではの悩みを抱えており、課題解決のためには自分たちの持つ資源の発掘や対象のニーズを把握することも欠かせません。EPO東北は採択団体の事業がビジネスとして走り出し、全国に普及しうるモデルとなるよう事業計画づくりを一緒に進めています。



	団体名	事業名	主な地域
特定非営利活動法人	団体東鳴子ゆめ会議名	心と体を癒やす“里山プラットフォーム”づくり事業	宮城県大崎市東鳴子地区
	日本の森バイオマスネットワーク	震災復興を推進する環境教育事業	宮城県、岩手県、北上川流域
民間企業	(株)ファーマンステーション	エネルギーと飼料の地域内循環システムの構築事業	岩手県奥州市

環境教育に関する法律が変わりました！

2012年6月15日に「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」の改正法である「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」が公布され、2012年10月1日に完全施行されました。

今回の改正では、持続可能な社会の実現のために「環境保全の意欲の増進」、「環境教育」、「環境保全活動」そして「協働取組」が重要であるとし、大幅な加筆が加えられたことから名称も変更されています。

■「協働取組」に関する規定を大幅に追記

旧法では意欲増進と環境教育の2本立て構造でしたが、行政・企業・民間団体等が協働で取り組むことによって環境教育や保全活動の推進力を強化するため、民間団体の公共サービスへの参入機会の増大を求めた条文、環境の保全に関する活動への経済的インセンティブの促進を求めた条文などが追記され、幅広い内容を

取り込んでいます。

市民による政策提案など、政策形成への市民参加、協定に基づく協働取組の推進が制度化されました。これにより、上下関係のない、行政・企業・NPOを含むマルチステークホルダーが関わる協働取組が生まれる可能性が高まりました。

■体験の機会の場の認定

子どもたちが地域の身近な自然にふれ、体験を通して学ぶ機会を増やすことの重要性が見直され、NPO等が提供する自然体験活動など体験活動の機会の場を、都道府県知事が認定する制度が導入されました。

現場で活動する環境NPOの皆様にご活用していただきたい法律となりました。

改正の詳細は環境省のWeb-siteでご覧いただけます。

http://www.env.go.jp/policy/suishin_ho/

3.11あの時 stage2012 -そして、これから-

3月11日（金）14時46分。あの時、何が起こったのか。EPO東北では2011年4月から、「3.11あの時」と題し環境活動に携わる皆様にヒアリングを続けてきました。1年をかけて集めた40件のレポートは2012年5月に冊子化の運びとなり、各地のEPOを窓口として全国で読まれています。これからの支援の在り方を検討するため、社員研修の一環として、あるいは今後くるかもしれない災害への備えのためにと、NPOはもちろん企業、福祉施設などでも読んでいただいているそうです。

ぜひこのヒアリングを続けてほしいと応援の声をいただき、2012年度もヒアリング活動に取り組んでいます。前回お話しを伺った皆様のその後の活動を追う他、ヒアリング範囲を東北各地に広げ、本年度は秋田や山

形の団体にもご協力いただいています。レポートは「3.11あの時stage2012 -そして、これから-」と題して、EPO東北のWeb-siteに掲載していますので、ぜひご覧ください。

冊子「3.11あの時」（2012年5月31日発行）

■増刷決定！

冊子は無料配布しております。郵送ご希望の方は送料をご負担願います。

■Webダウンロード

EPO東北のホームページで冊子のPDFデータをダウンロードできるようになりました。





復興支援グッズ

環境再生活動の支援につながる、または復興支援につながるエコグッズ (マイバッグなど)

1

閑上あみーずの「レインボーアクリルたわし」

東日本大震災の大津波によって壊滅的な被害を受けた宮城県名取市閑上(ゆりあげ)に住んでいた主婦が、震災後に立ち上げた、手芸グループ「閑上あみーず」。震災前に見たような綺麗な虹がまた閑上の町に架かることを願いながら、復興の思いを込めて希望の明るい七色のアクリルたわしを作っています。

問い合わせ先：NPO法人 地球のステージ
<http://e-stageone.org/>



2

「相馬あくりるたわし」は「希望のたわし」

①被災した方の精神的ケア②被災した方への経済的支援③被災した方の現状を知ってもらう事で大震災の記憶を風化させず、防災意識の向上につなげることを目的にたわし作り・販売に取り組んでいます。
全国各地の皆様のご協力をお願いいたします。

注文先：〒976-0011 福島県相馬市新沼字刈敷田18-5
刈敷田第1仮設7-6
TEL：080-5225-3587
(相馬遊楽応援団) 小幡広宣 mail: koueidoboku@gmail.com
送料込みで1つ300円、編み手さんのメッセージ付き



3

わたりの「ふぐろ」

てしごとプロジェクト「WATALIS」では、「FUGURO(ふぐろ)」づくりを通して町の復興を願う仲間とのコミュニティを生み出しています。
古い着物地を再利用し、限られた材料で作られるため、「FUGURO」はひとつひとつがオリジナル。使われる生地によってさまざまな表情を生み出すこの巾着袋には、互理の人々が大切に受け継いできた感謝の心が詰まっています。

注文先：〒989-2351 宮城県亶理郡亶理町字中町22
TEL/FAX：0223-35-7341 mail: info@watalis.jp
<https://www.facebook.com/watalis>



東北6県 EPOトピックス



里山を利用した大人と子どもの自然塾

十和田湖や八甲田の近くにある「どんぐりの森」の山林、広場、小川、池、畑からなるフィールド(約7ha)を利用して、大人のレクレーションおよび子どもと大人の交流に根ざした自然塾であり、子ども達とともに作業をしながら五感で自然や命にふれる環境の体験を通じて、自然を大切にできる豊かな感性と行動力を育むことを目的に活動している小さなNPO法人です(設立：2008年7月)。

主な事業は、①過密脆弱森林の緑化再生事業、②間伐材の有効利用、③沢水の有効活用、④里山活用研究会、⑤レクレーションなどですが、各会員が希



望する何れかの事業の主体となって活躍するようにアレンジしています。

これまで、①では在住外国人や留学生を含めた市民植樹祭、記念樹オーナーとの交流会などを、②では間伐材を利用した炭焼きとキノコ類の栽培、③沢水を利用したゲンジボタルやカワナ(中間宿主)の養殖や食用植物の栽培、また④森林の多面的機能に関するフォーラム、巨木探索会やチェーンソー・アート講習会等の勉強会、⑤熱気球(繫留)の打ち上げ、八甲田尻滑り、スノートレッキング、ホテル観察会とキャンプ、ツリーイングの開催などが、年間のイベントとして行われてきた。

最近では、地域における高齢者の自

わが流域環境ネットの活動について

当会は、平成17年に北上川支流の和賀川流域で「和賀川流域水循環計画」を策定した協議会が母体となって、平成19年2月に設立しました。ふるさとの豊かな水と緑を次の世代に引き継ぐために、私たちが暮らす流域の河川、湖沼、森林等の保全と調和を図り、自然環境を基軸にした地域づくりを、地域住民や行政等と連携しながら推進していきたいと考えています。

主な活動として、圃場整備工事等に伴う自然環境への影響を検討するために、希少野生動植物の調査を行い、環境緩和の方法や提言を行っています。また、農村地域に残る自然環境を取り戻すピオトープの公園や環境水路の再生などを、住民とワークショップ

で話し合い計画を行っています。

森林活動では、北上市民に身近な里山として親しまれている展勝地男山を、地域住民や子どもたちなど、広く参加を呼びかけて森林整備を実施しています。また、和賀川の水源地の森(緑のダム)づくり事業として、和賀川の上流域に住む親子が交流しながら、きれいな水を育む森づくりを実践しています。森林整備やブナの森の観察会などを通じて、森林の多面的な役割を感じ、森づくりへ関心を持っていただきたいと思います。

今後の活動も子どもたちの環境教育が重要と考えています。自然観察会や川の生き物調査などを通し、自然環境の尊さや大切さに気づき、さらに森

東北6県 青森 EPOトピックス

NPO法人どんぐりの森・山楽校
●理事長(塾長)：川村 清市
●事務局：BUNKA新聞社 (Tel 23-0249 Fax 23-0292)
〒034-0022 青森県十和田市東二十四番町28-5
●HP：<http://outdoor.geocities.jp/dongurinomor20082/Dongurinomor.html>
●E-mail：sekawamur@ybb.ne.jp

立に関する勉強会、果実の栽培と果実酒の試作や木質バイオマスの商品化への取り組みについても検討を始めています。



東北6県 岩手 EPOトピックス

特定非営利活動法人わが流域環境ネット
●代表理事：小田島 清
●事務所：〒024-0094 岩手県北上市大通り1丁目3番1号
おでんせプラザぐろーぷ3F
●TEL/FAX：0197-64-7411
●E-mail：waga@ryuiki.net

や川の自然の中で好奇心を掻きたてながら、自然への愛護心を育ててもらいたいと思います。



よみがえれ・清流

■設立

広瀬川の清流を守る会は、平成11年5月に設立され、平成13年4月に非営利活動法人化。広瀬川の清流を次代につなげていくことを目的に設立されました。安全な川づくり、豊かな川づくり、そして憩いの川づくりについて市民から公益的に政策提言し、具現化することをモットーとしています。具体的な活動としては、流域から投棄されるゴミ対策、流入する水質汚濁による環境対策、放置され肥大化した中州、寄り州の除去など、治水・利水・環境のバランスのとれた管理事業について国交省、宮城県、仙台市等に対し、提言を行い、河川管理並びに河川整備計画に活かされています。

■活動

広瀬川（広瀬橋周辺）の河川清掃は、

県・市・本会と取り交わした「スマイルリバープログラム」により、一般市民も参加し毎月開催しています（1、2月休み）。川の清掃と観察会を兼ね、年2回の花見会と芋煮会等のお楽しみ企画を入れ、清掃しながら語る会と懇親会を実施しています。

ホタル事業では、川の生物指標としてホタルを対象とし、地域の小河川でホタル再生等に取り組んでいます。本会が通年、幼虫の飼育から成虫の観察会を開催。学校や諸団体等の要請により、講演やホタル再生事業を支援しています。毎年、青葉区下愛子蕃山ビオトープと太白区大野田小と連携したホタル観察会「舞衣ちゃんの夢」を開催しています。

「政宗さんの川狩り」は、毎年8月末の夏休み最後の日に太白区八本松地区の

東北6県 宮城 EPOトピックス

特定非営利活動法人広瀬川の清流を守る会

- 〒982-0011 仙台市太白区長町1-2-16-201
- TEL：022-247-6522
- FAX：022-290-3205
- HP：http://www.hirosegawa.com/
- E-Mail：info@hirosegawa.com

広瀬川じゃぶじゃぶ池で、アユつかみ大会、その場で塩焼きでアユを食べるイベントを開催しています。これは、今から400年ほど前に仙台を開いた伊達政宗公が、夏に広瀬川で川狩り（川で魚を取る川猟）をこよなく愛したという故事に倣い、川遊びを行っています。広瀬川との接点を広げて川を知り、五感を通してみんなで川を楽しむ。そして広瀬川を大切にすることを大きな目的としています。今年で12回目の開催となりました。アユつかみが楽しかった、塩焼きのアユが美味しかった。参加して良かった。と大変好評です。次回開催にはぜひご参加をお待ちしています。

中山間地を元気で明るく住みよい地域づくり

酒田市周辺の中山間地は、高齢化や農林業の衰退により、里山の自然環境の悪化、生活環境の低下に歯止めがかからない傾向にあります。

NPO法人ひらた里山の会は、地域住民・行政・企業・大学・他団体と連携し、中山間地の特性を活かした創造的再生事業により、明るく住みよい地域づくりに貢献することを目的として平成21年4月会員29名で発足、平成24年現在会員50名。

- ★中山間地資源の調査を実施し「考えよう みんなの森」森林デザイン事業を官民一体で開催。研修会、ワークショップなどを行い、具体的な提案をまとめ、整備推進へ向けた活動を行なっています。
- ★手入れのされてない杉林や竹林の下刈り・枝打ち・間伐などの里山再生

を進めます。孟宗竹を松島のカキ養殖棚材として、復興再生支援を行なっています。残材は炭やチップの良質な土壌改良材として畑地再生へ

- ★里山景勝地周辺の草刈り、マップの作成、道標や案内板を設置し、誰でも安心できる癒やしの場として整備し、イベントの開催などで交流人口の増を図り、未来を担う子どもたちの自然体験学習を支援します。

参加者募集

- ★毎月第2日曜日10時～14時
ひらたタウンセンター
フリーマーケットひらた
参加申し込み当日/500
- ★10月11日 毎週土・日9時～11時、
竹林の間伐作業でカキ養殖棚を支

東北6県 山形 EPOトピックス

NPO法人ひらた里山の会

- 〒999-1706 山形県酒田市砂越字上川原459-2
- TEL&FAX：0234-52-3046
- ひらた里山の会 blog：http://ameblo.jp/hirata-sato/
- E-mail：tadatom@maroon.plala.or.jp

援するボランティア募集

- ★11/3（土）第4回経ヶ蔵山～十二滝ツアー50名
- ★11/24（土）ボランティアリーダー研修会25名
レクリエーション利用型の森林整備について
- ★12月 湖上岩魚自然体験学習観察会15名



NPO法人 冒険の鍵 クーンについて

初めて体験する事は全て冒険です、特に子ども達の冒険（ソフトアドベンチャー）の入口の鍵になりたいという想いから男の子を呼ぶ時の「クン」に親しみを込めて「クーン」とした。

■設立の経緯

見た事、感じた事、聞いた事が無い物事には人間関心を持ちません。自然環境と利活用の両立を考えた時に大人はもちろんです。今後を背負う子ども達に近く自然を感じる事から始め、地域を知り自ら考えられる機会を提供することを目的に設立しました。

この地域では多くの子どもたちが高校卒業と共に進学、就職と地元を離れ都会に出ていきます。地域を離れていく子ども達のポケットに、自然と触れあう野外活動を通して楽しかった思い出や自分の育った土地の歴史・文化などをいっぱい詰め込んで送りだしたい。体験したことが財産になり故郷を誇りに思える事が生きて行くための人間力になる。秋田を出た子達が悩み立ち止まった時にポケッ

トを覗き込み、ふるさとを思い出さずかけになれば、力を付けた子ども達は秋田を見捨てる事は有りません。この想いが何かの形で必ず帰ってくると信じています。この団体を立ち上げたキッカケでもあります。

■活動実績

- ・ふるさとサマーキャンプ（2012年48名参加）：出入り自由参加で3泊4日、8年間継続
- ・植樹活動「100年後のブナ林を作ろう」（2011年232名参加で697本植樹）：種子拾い、種蒔き、育苗、植樹すべて子ども達が係る・苗畑をブナ林近くに作り8年継続事業
- ・環境教育事業（2011年67回実施・参加者1500名）：市内小学校2校

東北6県 秋田 EPOトピックス

特定非営利活動法人 冒険の鍵クーン

- 代表者：村田 君子
- 設立年月日：2004年6月7日
- 所在地：〒018-4301秋田県北秋田市米内沢字寺ノ下8-28
- TEL：0186-72-3168
- FAX：050-7515-6163
- 会員数：14名（子ども達が好き、思いやりがある方 募集中…知識はゼロで良い）

- 担当・その他依頼
- ・自然体験事業（2011年50回実施・参加者543名）：県内・県外参加
- ・指定管理事業（自然体験実施プログラムの拠点として秋田県自然公園指定地を県から受託）：7年目
- ・その他（事業を通して地域経済の活性化・地域素材と人材の発掘、磨き上げ・講演など）

■今後の活動予定

- ・続けてきた活動（活動実績に記入）を継続
- ・調査事業（熊調査）を地域の大学、動物園などと連携事業を検討中（子ども達へのプログラムにする）

市民参加の森づくり活動推進

～健全な森づくりのためにもっと木を使っていこう～



私たちの会は2001年開催のうつくしま未来博の理念を継承することと市民の森を市民の手でつくり・守り・育て、その市民の森において安全に気軽に楽しくつき合うことのできる仕組みを作ることを目的として2001年10月に設立しました。

2004年6月には事業活動を発展させていくためにNPO法人の認定を受け現在に至っております。会員数は現

在140名。

事業内容としては（1）市民の森づくり事業、（2）森とのつき合い方の勉強、プログラム開発に係る事業、（3）自然案内人の育成ならびにインタープリテーション事業、（4）森林や林業に関する啓もう事業、（5）森に関する各種情報の受発信事業、（6）その他本会の目的達成に必要な事業（湯ノ岳山荘の管理運営他）として、いろいろな活動を行ってきましたが、2010年からはこれらの活動の中で健全な森づくりのためにはもっと木を使っていくことが必要であることを理解してもらうように努めております。具体的には（1）健全なもりづくりのための市民意識醸成、（2）市民参加の森づくりのためのネットワーク組織作りと

東北6県 福島 EPOトピックス

NPO法人いわきの森に親しむ会

- 〒972-8326 福島県いわき市常磐藤原町湯ノ岳2 湯ノ岳山荘内
- TEL/FAX：0246-44-3273
- HP：http://www6.plala.or.jp/goan/
- E-mail：yunodake@gray.plala.or.jp

ネットワーク拠点施設の整備、（3）間伐・間伐材利用促進に重点を置いた取り組みを行っております。現在は木育教育の実践と間伐材を利用した家庭用木工製品作りにとどまっておりますが、できるだけ早期に地元材を利用した家づくり運動を進展させていきたいと思っております。

